



災害時の乳幼児食の備え

災害時には、交通網の遮断などにより、粉ミルクや離乳食などの特別な食品が手に入りにくくなるのが想定されるため、少なくとも3日から1週間分を備蓄することが推奨されています。



○ミルクの備え

災害時においても、飲み慣れた母乳やミルクで普段と同じ授乳ができることが大切です。液体ミルクや粉ミルクを活用することができますが、液体ミルクは、水やお湯がなくても調乳の必要がないため、すぐに飲ませることができて便利です。粉ミルクの場合は、哺乳ビンや紙コップ、使い捨てのスプーンを備えておくと役立ちます。飲料水は、調乳用に多めに備えましょう。

○離乳食の備え

離乳食は、さまざまな調理器具を使用して作るため、災害発生時、ライフラインが停止し、調理できないことが想定されます。レトルトの離乳食は、月齢が進んでも、前の月齢のものを工夫して使えますので、用意してあると便利です。

○食物アレルギーのかたの備え

原因物質（アレルゲン）が含まれていない食品を備えましょう。
（アレルギー対応ミルクやフリーズドライの離乳食など）
また、食物アレルギーがあることを他者に知らせることも大切です。

参照：農林水産省ホームページ 「災害時に備えて食品の家庭備蓄を始めよう」



ミルクを備蓄しています

箕面市では、災害発生時に避難所等で使用できるよう、乳児用ミルクを備蓄しています。備蓄のミルクは、公立保育所・認定こども園で普段から使用しながら、使用した分を買い足す方法（ローリングストック）で常時必要数を確保しています。

